# 仙台教区報

発行所　カトリック仙台教区事務所
980 仙台市本町一丁目2番12号
電話〇二二二-22-七三七一番
編集・発行人　三浦　平三


## 6月29日、カテドラルで特別聖年ミサ

### 聖年の意義をあらためて理解しよう

6月はキリストの聖体、イエズスのみ心、洗礼者ヨハネの誕生、聖ペトロ聖パウロ使徒と祭日が多い。とくに聖ペトロ聖パウロ使徒の6月29日は、司教座聖堂元寺小路教会の献堂記念日にあたり、仙台教区創立記念日としても祝われる。特別聖年のことしは、教区主催聖年行事の司教ミサが、同日午後6時30分から司教座聖堂で行われる。市内や近郊の信徒が多数参加されるよう希望すると共に、地区や小教区教会でも、同じような聖年行事が催されることを期待したい。

聖年が始まって日は浅いが、もう一度さきの司教書簡を読み返し、聖年の意義を理解するようにしよう。信徒の一人ひとりが聖年に何をなすべきか、そこでは教えている。

#### 聖年に信仰生活の刷新を

司教書簡はつぎのように述べている。

「―私たちの自覚を新たにし、もう一つの実行を加えることです。具体的には、特別聖年の主旨にそっていっそう深い祈りと黙想にはげみ、誠実な心をもって『ゆるしの秘跡（告解）』に与り、清められた心で『聖体の秘跡（ミサ）』に参加することです」

私たちは一日を祈りによって始めているだろうか。正しくミサに与っているだろうか。告解を怠っていないだろうか。こうした信仰生活の刷新が聖年の実りにほかならない。

#### 新しい兄弟を暖かく迎えよう

今年も各地の教会で復活祭に洗礼式が行われ、私たちの共同体に新しい兄弟姉妹を迎えいれることができた。その一人ひとりはさまざまないきさつを経て教会に至りついたのだが、すべての信者と同じく贖い主イエズス・キリストによる救いを究極のねがいとすることにちがいはない。つよい信仰の模範を示して新しい仲間をキリストの救いにみちびき、その初々しい気持を挫折させないようにするのが、既に信仰を得たものの大切なつとめである。そのためにも私たち自身の信仰生活の見直しは欠かせないであろう。

#### ふさわしい教会活動のために

生きている教会は活発に活動をしている。教会内のものもあれば、教育や社会福祉の面で社会に働きかけるものもある。救いの大きな条件となるキリストの福音の実践が、こうした活動に端的に見いだされることはいうまでもない。これらの活動がふさわしく行われるためには、すべての信者が心を合わせ、よく一致してひとつの共同体、キリストの神秘体になり切ることである。私たち一人ひとりが信仰の原点にかえり、立派な信仰生活を送ることである。

### 司教日程

（5月11日現在）

6月6日　教区司祭団役員会（仙台）
10日　全国カトリック保育大会（東京）
11～12日　水沢教会訪問・堅信
14日　岩手県カト幼職員研修会（花巻）
19日　仙台教区修女連集会（仙台）
20～22日　青少年司牧担当者会議（松島）
24日　中央協財務委員会（東京）
26日　聖ペトロ聖パウロ祭日（元寺）
27日　教区司祭団月例会
27～28日　教区カテキスタ黙想会（仙台）
29日　特別聖年のミサ（元寺、午後6時30分）
30日　仙台白百合学園記念日
7月3日　宮城県信徒大会（仙台・白百合）
7月4～9日　司教会議（東京）

## 教皇、広報の日メッセージを発表

# 平和の促進には受け手も責任

教皇ヨハネ・パウロ二世は今年の第17回広報の日に、世界平和を促進すべき広報の責任を強調した（カトリック新聞5月8日号）。このメッセージは、為政者や広報活動を行う者への政治的なものではなく、私たちのような情報の受け手であるすべての人に対しても指針を与えている。

受け手といっても、ただ与えられるという消極的態度にとどまらず、むしろ積極的に働くことが望まれる。なんの考えもなく新聞やテレビなどに接するのではなく、たとえば次のような心掛けは大切。

①あらゆる情報につよい関心をもつ
②情報をそのまま信じないで考えてみる
③自分の考えや福音の教えから判断する
④情報を自分の行動に活用してゆく

以上は日常の生活の新聞、テレビでも、教会内広報でも同じ。毎年実施される広報の日は無関心に終ってしまうが、一日だけのものにせず、「平和を促進する広報」という今年のテーマを本気に考えよう。私たちの生活にもう欠くことのできない新聞やテレビを、とぎすまされた良心で真剣に考え、正しい認識をもつようにというのが教皇の願いである。

## ベトナム難民定住促進運動

### 仙台教区は間接協力か

教区では難民受け入れに協力するため、各教会や修道院にアンケートを送ったが、回答は多くなかった。しかも難民受け入れを考えてもよいという直接の協力は二、三の教会にとどまり、多くは募金等の間接協力をのぞんでいる。教区内に難民キャンプがなく、直接体験が少いせいだろう。中央での活動も、現在難民施設にかかわっている教区が主で、仙台教区への働きかけはない。一方、この問題は日本教会全体で協力することがきめられており、仙台教区としては難民の状況や定住の問題点を理解することが当面の協力となるだろう。難民定住対策特別委ではいま、「難民定住のしおり－協力支援者のために」を作成中だが、それによって仙台教区での協力姿勢が明確になることを期待している。

## 教区聖年行事

### 「長崎巡礼」決まる

教区聖年行事のうち、懸案であった長崎巡礼は別掲のように、8月14日から18日までの4泊5日間実施されることになった。これはカトリック新聞特別聖年長崎巡礼団の中に、仙台教区でのワクを設けたもの。8月15日の聖母被昇天祭を長崎で祝い、平戸および津和野の乙女峠をも巡礼する祈りの旅である。

なお聖地やローマへの巡礼については、カトリック新聞その他に広告されているが、伊藤庄治郎新潟司教を団長とするカトリック新聞社主催（10月17日出発）を推せんする。

### 仙台教区特別聖年「長崎巡礼」

日程

8月14日　朝仙台出発　東京経由長崎市内巡礼など〈長崎泊〉
15日　聖母被昇天　浦上天主堂ミサ　市内巡礼など〈長崎泊〉
16日　外海町出津教会、ドロ・記念館、平戸へ紐差教会〈平戸泊〉
17日　平戸発佐賀経由山口ザビエル教会　津和野〈津和野泊〉
18日　津和野マリア聖堂　福岡へ夕刻空路東京経由仙台着

期間　4泊5日
募集人員　45人
参加費用　仙台発着　一三九〇〇〇円（ローンも可）
申込金　3万円
申込締切　7月14日まで
同行司祭　三浦平三（教区事務所）

なお三沢、花巻からも空路東京発着で合流できます。14歳未満は1万円引き

参加申込みは　仙台教区事務所　三浦平三神父宛

各教会にパンフレットを送っています。

## 御礼

このたび岩手県久慈市の山火事災害にカリタス・ジャパンをはじめ全国の教会や信徒の皆さまから、いちはやくご援助いただきました。紙上を借りて心から御礼申しあげます。　仙台教区

## カリタスから　山火事災害に二百万円

さる4月末に続発した東北地方の山火事災害では、とくに岩手県久慈市に31世帯の被災者が出るなど、大きな被害があった。カリタス・ジャパンからは早速、緊急災害救援金として一〇〇万円が送られたほか、全国の教会関係者からも救援金や衣料などがとどけられた。久慈教会（主任司祭・トマ神父）では信徒らが被災者を訪問して、これらの救援金をとどけるなど大いに活躍した。

## 盛岡で『世界の聖書展』など

### 岩手県を中心に「聖書愛読運動」

今年の日本聖書協会主催「聖書愛読運動」は、岩手県を中心にして各種の催しを集中的に行うことになった。この運動はキリスト教各派が超教派的に協力して、神のみ言葉を広めようとするもの。今回は四ツ家教会のバウマン神父が実行副委員長に就任するなど、カトリック教会も積極的に協力している。具体的には次の四つの行事が予定されているが、県内はもちろん教区内各地からの参加を呼びかけている。

①世界の聖書展
6月3日～7日。盛岡市カワトク・デパート6階大催事場。20世紀最大の発見といわれる死海写本、古写本、日本初訳本や世界各国語訳聖書など。そのほか15世紀に初めて聖書を大量印刷して大衆のものにしたグーテンベルグの印刷機を展示。

②記念講演会（会券五百円）
6月3日午後6時30分・県民会館大ホール
講師　三浦綾子　隅谷三喜男

③巡回講演会（入場無料）
6月5日午後2時・善隣館
講師　山本七平（評論、聖書解説多数）
6月10日午後2時・カトリックセンター
講師　高見沢潤子（評論、人生論など）
その他、佐古純一郎、岸千年、岡田暾吉の各講師が県内を巡回講演する。

④作品コンクール
テーマ「聖書と生活」
幼児や小学生から大学生までの絵画、工芸、工作、詩、作文を募集。
6月3日から7日まで盛岡市カワトク・デパートに展示する。

## カリタス・ジャパン全国大会　永年勤続表彰者

（仙台教区関係）

第4回カトリック社会福祉全国大会が6月12日、東京の清泉大学で開催される。大会では社会福祉施設の永年勤続者が表彰されることになっているが、教区関係者は次の通り。

勤続31年以上　大会名誉総裁表彰
菅野今朝治（ラ・サール・ホーム）

勤続26年以上　大会総裁表彰
平岡　威（スペルマン病院）
小川ふみ子（　〃　）

勤続20年以上　大会会長表彰
江刺　静枝（スペルマン病院）
駒米きよし（　〃　）
目黒　良喜（ラ・サール・ホーム）
佐藤　幸男（　〃　）
今野　養三（　〃　）

勤続10年以上　理事長感謝状
前田敏行、加藤照夫、平間淳子、久光つる、宇佐見俊一、天童和子、高橋和子、皆川節子、船山礼子、唐橋実、松田清江、木皿きぬ子、小沢洋子、梅沢公子、浅古鈴子、佐藤寛子、高木徳郎、遠藤たみ子（以上スペルマン病院）
中村志津雄、大開俊子（ラ・サール・ホーム）
伊藤菊江、小野寺ゆきえ、佐藤すみ（以上米川聖マリア保育園）

## 仙台ウルスラ小学校
### 新装成る
#### 一九三六年来日発祥の建物
#### 木ノ下修道院も改築

昨年春から増改築工事をすすめていた聖ウルスラ会木ノ下修道院と聖ウルスラ学院小学校（仙台市木ノ下1の25の25）の建物が完成し、さる4月30日午前10時から、教区長佐藤千敬司教司式のみことばの祭儀とともに落成式が行われた。木ノ下修道院は一九三六年来日したウルスラ会が最初に建てた修道院、いわば発祥の建物。小学校は戦争直後の一九四九年に建てられ、老朽化とさきの宮城県沖地震の被害が大きく、改築がのぞまれていた。今回まったく面目を一新してすばらしい建物になったが、完成までには多くの方がたの協力があった。理事長猪岡庫修道女の式辞、管区長大野俊子修道女のあいさつにも、決意とともに感謝の言葉が何度も述べられた。

小学校は鉄筋コンクリート3階建、建築面積一一八四・〇九六平方メートル、延面積二七一九・〇八三平方メートル、12の教室のほか音楽室、理科室、図工室、家庭科室、英語室などがあり、静かな祈りの部屋もある。

修道院は鉄筋コンクリート2階建、建物面積一六〇・七五平方メートル、延面積三一一・八九平方メートル、旧修道院とは全く対照的にモダンな建物だが以前の半分になった。

両方とも山下設計仙台支店の設計、安藤建設仙台支店の施工、総工費四億一千万円。

## 宮城県信徒大会は7月3日
### 「キリストの平和を」を
#### テーマに

宮城県信徒大会はことしから、昨年度発足した宮城県信徒連絡協議会（新村信夫会長）の主催になり、今年度は来る7月3日、仙台白百合学園を会場に開催される。

今回のテーマは、「キリストの平和を！知り合おう、そしてキリストを運ぼう」

午前10時開会、直ちに共同司式ミサ、教区長講話。昼食はブロック別、新しい試みとして昨年の信徒大会以後に洗礼を受けられた方がたの紹介が行われる。午後の交流会では、さまざまな話題に分かれて話し合われる予定であるが、例年のように教会学校生徒らの子どもの部会も同時に開かれる。

## 三教区合同司祭研修会
### 10月11～13日に福島飯坂で

今秋開催を予定している新潟、浦和、仙台三教区の合同司祭研修会の日時と場所が決まった。日時は10月11日、12日、13日の2泊3日。場所は福島市郊外の飯坂温泉にある公立学校共済組合保養所「あづま荘」。

この研修会は第二バチカン公会議終了直後の一九六六年、公会議文書の学習を目的に開催されたが、超教区の司祭の交流が評価されて今回は10回目を迎える。今回のテーマは、「公会議後の二十年を顧みて」。

## おしらせ

### 後藤寿庵大祈願祭

6月5日　午前9時30分より行列（任意）
　　午前10時より式典
水沢市福原地内　寿庵廟前
（雨天の際は午前10時より水沢教会で）

今回は、寿庵の主君である仙台の伊達政宗が、当時の教皇パウロ五世に支倉六右エ門をかしらとする使節を遣してから三百七十年。式典のミサの司式は教皇庁駐日大使マリオ・ガスパリ大司教が行います。多数ご参加下さい。親睦会のあと、希望者に対して「寿庵ぜきめぐり」を行う予定。

### 仙台教区修道女連盟研修会

6月19日　午前9時より午後3時
仙台市中央公民館
研修テーマ　「あがない」と「和解」
講師　ドミニコ会　イヴ・ベロー神父
研修会終了後に教区長佐藤千敬司教の司式によるミサを行います。

### リーダーのためのキリスト教講座ワークショップ

主催　オタワ愛徳修道女会
日時　7月26日より29日まで3泊4日
場所　東仙台光ケ丘研修所
講師　Gグリフィン神父、シスター吉田
対象　司祭、修道者　定員30人
参加費は一人〇〇〇円、希望者は7月16日までに前記修道会に申込んで下さい。

## 入信手記

# 誰の紹介もなく 教会を訪れてから

マグダレナ・マリア 佐藤 政子

復活ろうそくから点火したろうそくを代母に手渡された瞬間、全身に喜びを感じて躍りあがりたいほどでした。聖歌を歌いながらひとりでに体が弾み、人目が気になって恥かしいぐらいでした。前日まで聖週間の式に与って心がたかぶり、洗礼のときにはどうなるんだろうととても不安だったのです。長い復活徹夜祭の中で洗礼式が行われ、私は子どもたちと親子四人で洗礼の恵みを受けました。

長女のドミニコ幼稚園が縁でカトリックを知り、いろんなことがあって、洗礼を受けたいと教会を訪れたのは四年前でした。誰の紹介もなく、一度耳にした土井神父さまの名前だけが頼りでした。私のグチを聞いて神父さまが話してくれた、試練に耐えるヨブの話にとても感動し、洗礼を受けたいという気持ちがだんだん強くなりました。しかし誰ひとり知った人のいない教会ではそれもいい出せず、ひとりで思い悩むだけでした。

そんな望みをもちながらも、聖書の勉強が夏休みになると、そのまま教会にもご無沙汰してしまいました。長いブランクがあって、再び教会を訪れたのは二年ほど前、二女が白百合幼稚園に入園したのが機会でした。久しぶりにお目にかかる神父さまが懐かしく、つい洗礼を受けたいと口走っても、きめられた勉強にも出られない有様でした。しかし洗礼を受けたい気持はつのり、昨年の復活祭の前に神父さまに申し出ました。「今年はダメ、来年」とはっきりいわれて、そのときやっとこれまで洗礼を安易に考えていたことが思い知らされました。それが転機になりました。

その後は勉強はもちろん、毎週のミサにも与り、今まで考えてもみなかった教会共同体のことや婦人会の存在にも気づきました。同年輩の信者の方と知り合い、親しくなりました。そして聖書の勉強では分からない、教会のこと、信仰生活のことなどを信者の方がたとのつき合いで知ることができました。

これまでは自分のことをタナに上げ、人の欠点ばかりが目につき、教会の共同体を正しく理解していませんでした。こんな私が洗礼のお恵みをいただけたのも、すべてを許して多くの方が私をみちびいて下さったからでした。洗礼を受けたいまは、だんだん冷静にあたりを見ることができます。これまで、人間的な発想でしか見ていなかった時には考えもしなかった信仰のすばらしさに触れ、日々新たな気持で神に感謝の毎日を過しています。

こんなすばらしい宗教が、すぐ手のとどく所にあるのに、まだそれに気づいていない人や、気づこうとしない人がたくさんいます。イエズス・キリストは決して人間的エリートだけを招いているのではなく、なにも知らない人にも招きの手をさしのべているのです。いま私はその人たちに、どうかしてこのすばらしい宗教を知らせてあげたい、そんな気持でいっぱいです。（元寺小路教会所属）

## 春秋

中学生暴力の話を聞かされると心が痛む。昔も少年の非行や暴力が絶えなかったが、近頃の事情は少し違うようだ。ひと昔まえのゲバ学生のように、一時的現象であればよいが。なんとなく分かるのは、その原因が複合して、適切な処置がとられていないことである。その適切な処置のなかに、断固たる対処も含まれることだろう。

先日、新聞紙上に仙台のウルスラ高校生の大量退学が報じられた。事情が分からないからどうのとはいえないが、義務教育でもなく私学でもあるので、退学は不思議なことでない。しかし、そのような生徒を教育するのが学校、と正論も出ることだろう。その点はほんとうにむずかしい。ただ問題は、こうした正論が往々ことなかれ主義にすり変ることである。

学生運動で多くの大学キャンパスが荒らされたとき、当時の風潮にむしろさからい、警官を導入して学園秩序を守ったのは、上智大学が最初だった。しかもそれは、人間教育の信念にもとづいて、とピタウ神父は回顧している。田原校長の断固たる対処を読んでいて、ふとそんなことを思い出した。青少年に責任を教えること、それは迎合では出来ないのだ。

# おらが教会
## (32)
### 福島・野田町教会

福島市には二つの教会があります。東北本線を境に、東側の松木町教会と西側の私たちの野田町教会です。東北新幹線の開業で福島駅には西口が設けられましたが、教会はその西口から大通りをまっすぐ歩いて約10分。駅前の商店街をすぎると住宅地になり、やがて道の右側に緑の枝をひろげて立ちならぶヒマラヤ杉の中に、大きな十字架が見えます。

ペンキの匂う新しい聖堂で最初のミサがささげられたのは昭和28年12月24日クリスマスでした。松木町教会にくらべれば創立二十年のまだ新しい教会です。主任司祭は創立以来ドミニコ会のモリソン神父。教会設計の青写真をもって赴任してきたときは、付近一帯は田植を終えたばかりの青田で家もあまりなかったそうです。それから教会を建て、司牧の基礎づくりをして今日の発展を見ました。

昭和39年4月26日に当時の教区長小林有方司教によって盛大に献堂式が行われ、聖マリアの汚れなき御心に献げられました。41年4月に聖堂に隣接して、福島カトリック幼稚園が設置されました。

主任司祭のモリソン神父はカナダ生まれのイギリス人、東北入国管理事務所の永住ビザ第一号だそうです。すらりとした長身で、いくつになっても万年青年の感じでしたが、見事なヒゲをたくわえられて変身されました。しかしヒゲの中の笑顔は慈父そのもので、幼い子どもたちからも親しまれています。

信徒数は台帳で三百人、ふつうミサには百人ぐらいが出席します。幼児や若者も多いですがやはり信徒の老齢化の問題もあります。信徒同士の親睦、横のつながりをもちながら神との一致を強め、信仰を深めつつ地域にとけこみ、神の平和を広げることを教会活動の目的にしています。また教会は自分たちのものという自覚をもって多元的に努力をしています。

活動の母体は信友会、婦人会、青年姉妹会などですが、典礼部、福祉部、広報部、リクリエーション部などもつくられています。4月には信徒総会が開かれ、過去一年のしめくくりと、新しい出発をきめます。具体的な活動は毎月第一主日のミサ後信徒会を開き、各部担当者からの経過報告や、予定された行事について話し合いがなされ、みんなが協力して取組んでゆきます。

年中行事は6月の松木町教会との親善ソフトボール大会、8月の共同墓地の清掃、11月のいも煮会、市キリスト教連合会の募金活動や市民クリスマスなどです。とくに婦人会は活発で、けやきの村、大笹生学園の定期ボランティア活動、教会における接待、クリスマスの小バザー、四旬節愛の募金運動への援助や秋のいも煮会の豚汁に腕をふるい、クリスマスの夜は二百人分の熱いおでんを用意するなどすばらしい活躍をしています。

神との一致を深めるため、今年はさらにつぎのようなことを計画しています。昨年52週分のミサ説教のカセットテープをつくり、いつでも誰にも貸出す用意をする。日曜学校は三年間信徒の父兄が手伝ってきたが、5月からの新学期の準備をする。五年ぶりに信徒名簿の改正発行をする。亡くなった信徒の家族（未信者）への教会案内をする。担当教会になったので県カトリックの集いの準備をする。

活動を通して神との一致、わかち合いの実が結ぶことをねがい、信者一同心を合わせて努めているのが〝おらが教会〟です。

（広報部　木戸　清吉）

**【編集後記】**

本号から題字を変えた。本来ならこうした変更は大ごとだが、気分一新ということで他意はない。そもそも仙台教区報の名称は、伝統的に「炬火（たいまつ）」▽だから「教区事務所だより」でも、「教区報」でも、ただ仮の名前にすぎぬ。一刻も早く、晴れて「炬火」の題字が使えるように、成長を心がけてゆこう▽これまで「事務所だより」の編集の中心だった、シスター小川（ウルスラ会）が3月末で辞められた。ご苦労さまでした。年々歳々人も物事も変る▽その中にあって変らぬキリストの福音をふまえ、永続させてゆくのが教会マス・メディアの使命だろう。各教会報の仕事をしている方に感謝し期待する。